

慈田めぐみ

鎮西敬愛学園通信

No. 69 2017年 冬号

敬愛幼稚園／敬愛中学校／敬愛高等学校

〒800-0035 北九州市門司区別院6番1号

中・高 TEL 093-381-3537 FAX 093-391-8049

幼稚園 TEL 093-371-2267 FAX 093-391-9385

敬愛小学校

〒800-0057 北九州市門司区大里新町11番7号

TEL 093-381-0611 FAX 093-381-0601



高校2年修学旅行
バンクーバー・シアトル（カナダ～アメリカ）

こゝろ

何にも変わらないようにみえても
自分自身はいつも新しくなっている

酒井雄哉

あらゆるものが複雑に関わり合い、刻一刻と変化する中で、私自身もまた変化を繰り返しながら生きています。わずかな時間の経過でその変化を実感することは稀ですが、一日経てばやはり昨日とは異なる私がここにいることは明らかです。何ひとつとして一定ではないこの世界にあって、私たちは常に新しい今を、新しいいのちを紡ぎながら生きていけるのでしょうか。

しかし、私の意識は日々の生活において、そのような新鮮な感動を忘れていくような気がします。いつもと変わらない日常を当たり前のこととして過ごしながら、ともすると、大して変化のない毎日に不満さえ抱いているような現状です。

本当は同じ日などないはずですが。私自身も、そして私を取り巻く状況も。今この瞬間も、私はさまざまなものと関わり、新しい自分を築き上げていつています。何気なく過ぎていく日常が、実はとどまることなく変化しながら、あらゆる支えの上に成り立っている事実を知るとき、今日一日が、そして今この時が、かけがえのないものであることに気づかされます。と同時に、常に今を新しい自己実現の場として生きる私という存在が、時間的にも空間的にも無限のつながりの中で育まれ、生かされていることの尊さを感じずにはいられません。

どのような変化も、私が私になるための縁と受けとめ、そのことを通して新しくなっていく自分自身とこれから出会い続けていきたいと思っています。

宗教科 谷川宏済

敬愛高等学校 第67回卒業証書授与式

名誉学園長（浄土真宗本願寺派前裏方様） お言葉

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆様のお慶びもさこそと拝察致しまして、心よりお祝い申し上げます。おめでとうございます。

今朝は、敬愛高校での楽しかったこと、頑張ったこと、反対に苦しかったこと、辛かったこと、色々と思い出されたことでしょう。どれもが貴重な経験として、これからの人生に生かされることでしょう。

今日の社会はビッグデータに人工知能、グローバル化に、変化が当たり前の時代になりました。政治や経済は、人権問題や難民、地球環境などの世界的な問題より、目の先の損得にとらわれるようになりました。今一度、考えなければならぬことは、科学技術の進歩も、経済の発展も、それが人間にとって、社会にとって幸せかどうか、ではないでしょうか。皆様は、その問いかけに答えることができるよう学んでくださいました。お釈迦様の言葉を聴き、親鸞聖人のお教えに触れ、自分ひとりの幸せではなく、多くの他のいのちを敬い、共に生きる人間の姿勢、生き方を学んでくださいました。

親鸞聖人は、お釈迦様の教えや阿弥陀如来様のおはたらきなどを今様風に、和語で七五調四行で、五百首あまり作られました。が、その中にご和讃があります。

光雲無礙如虚空

一切の有礙にさはりなし

光沢かぶらぬものぞなき

難思議を帰命せよ

現代語訳では、「輝く雲のように広がる阿弥陀如来様の光はまるで大空のように、どのような煩惱にも妨げられることがなく、その光のはたらきを受けないものはない。計り知ることのできないはたらきをそなたに難思議、阿弥陀如来様に帰命せよ、お任せするがよい」とお示しになりました。たくさんさんの友人に囲まれていても、寂しさを感じたり、自分には甘く他人には厳しかったり、あと少しの勇気がでなかったり、いざとなると利己心を翻せないような私どもです。また、本当に阿弥陀如来様がお救いくださるのだらうかと疑うような私どもです。しかし、そんな阿弥陀如来様に背を向けることも救いの妨げにはならず、むしろそれだからこそ救わずにはおれないと、阿弥陀如来様はおはたらきくださいます。阿弥陀様にお任せするとき、阿弥陀様の光に遇い、私どもの心も柔らかく自由になります。卒業しても、手を合わせるひと時を持ち、ご自分を見つめると同時に阿弥陀様のお救いのなかにある安らかさを感じてください。

選挙権年齢が十八歳以上に引き下げられました。皆様もこれからの社会をつくる一員です。今まで以上に、社会状況、あるべき社会の姿などに関心を持っていただきたいと思います。よく分からないけれど、知らないうちに戦争が始まったなどということのないように、風潮や流行に流されて、他の国の人々を傷つけたり迫害することのないように、何が真実かを考え、見抜くまなざしを持ち続けてください。失敗を恐れず、明るい未来を目指し、多様な価値観の人々と、互いに敬い、協力し、問題の解決を図る社会の一員として活躍くださることを期待致し、お祝いと致します。

（文責 鎮西敬愛学園）



答 辞

厳しい冬を乗り越えた梅のつぼみが開き、寒さの中にも春の訪れが感じられるようになりました。そんな花たちが明るく咲き誇る今日の良き日に、私たちは卒業します。ご多忙の中ご出席頂きました名誉学園長様を初め、ご来賓の皆様、先生方、保護者の皆様、在校生の皆さん、このような厳粛な卒業式を挙げて頂きましたことを、卒業生一同、心から感謝申し上げます。

さて、時が経つのもはやいもので、真新しい制服を身に纏い、不安や希望を胸に初めてこの学校の門をくぐった日から、3年あるいは6年が経ってしまいました。振り返ると数え切れないほど沢山の思い出が頭の中を駆け巡ります。体育大会や敬愛祭ではクラスや実行委員、応援団というように様々な場面でそれぞれ自分の力を発揮しま

した。思い通りのことができず、悩み落ち込んだ日もありました。しかし、どんな時も、先生方や卒業された先輩方、後輩、そして互いに高め合ってきた仲間がいてくれたお陰で、最後まで成功を信じてやり遂げることができました。一つ一つの壁を皆で乗り越え、絆を深めることもでき、ひとりひとりの成長につながったと思います。沢山の思い出は、多くの人たちとの関わりの中で生まれ、その人たちに囲まれて私たちは共に成長してきました。

〔中略〕

そして、この3年間一番近くで私たちを見守ってくれた家族。自分のことを一番理解してくれているのに、なかなか素直に「ありがとう」の一言が言えず、家に帰れば、学校のことを聴かれてもそっけない返事をしてしまいました。今日まで家族には、色々な心配や迷惑をかけてきたと思います。けれど、家族の愛情につつまれ支えられて、ここまで来ることが出来たのはどんな時も支えてくれた家族のお陰だと思っています。今まで素直に言えなかった気持ちを今、ここで伝えたいと思います。お父さん、お母さん、今まで本当にありがとうございます。

最後にこれから敬愛高校を担う在校生の皆さんへ伝えたいことがあります。私たち卒業生の中には部活動や生徒会活動などを

通してつながった後輩との思い出が、沢山ある人も多いと思います。私にも、生徒会活動を通して身近にしてくれた後輩たちがいます。頼りない私にも、皆さんは付いてきてくれました。先輩方が私たちに託した伝統や思いを後輩の皆さんにうまく伝えることができなかったかも知れません。しかし、皆さんが、私を先輩と呼んでくれることで、少しでも立派な先輩になろうと努力したことは間違いありません。先輩として、私にはそれでも助けてくれる仲間がいました。だから、皆さんにもそういう仲間を作ってほしいと思います。これから何度か壁にぶつかると思います。そんな時には周りを見渡して下さい。皆さんにはいつも、情熱で支えてくれる先生方、共に頑張ってくれる仲間や後輩、一番身近には家族がいるのです。私たちにも、頼ってきて下さい。できる限り手をさしのべて、皆さんのこれらの活躍を応援していきたいと思っています。

そろそろお別れの時間です。こんなにも多くの人たちと関わり合いながら、この敬愛高校で成長できたことを心から感謝しています。何気なく過ぎ去った毎日は、私にとつてかけがえのない宝物です。私たち卒業生は、明日からひとりひとり違う道を歩んでいきます。これから私たちが歩み出す道は楽しいことばかりではないと思います。これまで経験したことのないようなこ

とを数多く経験すると思います。それでも、自分を信じ、困難に立ち向かって、これからの社会を生きていきたいと思っています。進む先に何があるうとも、ただひたすらに、自らの足で力強く歩んでいくことをここで皆さんと約束し、答辞とさせていただきます。

平成29年2月15日

卒業生代表 島津 健生



平成28年度 学習発表会

2月26日(日)に、学習発表

会を開催しました。1年生は、

群読劇「Rice ball r

oll」を日本語と英語で披露

しました。これまで学習してき

た英語力を活かしながら、感情

を込めて発表することができま

した。2年生は、1学期から暗

唱してきた古典作品について調

べ学習を行い、情報科で学んだ

パワーポイントを使って発表しま

した。堂々としたプ

レゼンテーションに会場から多くの拍手を頂き、子ど

もたちの自信に繋がったようです。3年生の「モチモ

チの木」の群読では、主人公の豆太が大切なじさまの

ために夜道をひた走る様子が伝わってきました。4年

生は、家族や周りの方々への感謝の想いをテーマとし

て、合唱・合奏を披露しました。温かく美しい歌声が

アリーナを包み込みました。5年生は、英語劇「mo

motaro」に挑戦。とても綺

麗な英語の発音で、参観の方も驚

かれています。6年生は自分の

目指す将来の夢について、英語で

スピーチしました。最高学年とし

て堂々たる発表でした。

どの学年も日頃の学習の成果を

発揮して素晴らしい学習発表会と



特集 敬愛の教育 国際交流を通して

今年度も様々な国の人と交流をし、普段学習している英語を使い、その国の文化について学びを深めることができました。

5月、4年生はハワイ本願寺ミツシヨンスクールの方々をお迎えして、交流会を開きました。書道や茶道など、日本の文化を英語で紹介し、子どもたちにとって貴重な体験となりました。

6月、6年生が京都の龍谷大学にて留学生との交流会を行いました。英語を使ってコミュニケーションをとりながら、様々な国の文化に触れることができました。

2月、5年生がインドネシア教育視察団の方々に、お茶の作法を披露し、英語にて本校の学校紹介を行いました。子どもたちが英語を使って案内したことで、ゲストの方はとても喜んでいらっしやいました。



夏休みの英語キャンプや、世界の食事を味わうワールドランチウィークも、世界のことを学ぶきっかけになりました。

これからも様々な取り組みを通して、多様性を認め活動できる国際人を育てていきたいと考えています。



お茶会



マラソン大会



二分の一成人式

本校では、1〜6年生まで、茶道の学習を通して、日本の伝統・文化、そして、礼儀作法を学んでいます。その披露の場として、各学年とも、保護者の方をお招きしたお茶会を行なっています。3年生はお菓子やお茶のいただき方などの作法を学び、5年生は、柄杓を使って炉釜の湯をくむ所作を学びました。6年生は自分で茶碗を作り、6年間の感謝の気持ちを込めてお茶を点てました。どの児童も緊張した面持ちでしたが、とても上手にお点前を披露することができました。

1月23日から「スポーツ週間」と題して、毎朝持久走に取り組み、最終日の28日には「マラソン大会」を行いました。今年から校内だけではなく、学校周辺をコースとして設定し、「自己ベストを更新すること」を目標に、練習を積み重ねてきました。当日は天候にも恵まれ、多くの保護者の方々のご協力で、安全に大会を終えることができました。沿道の応援は、児童にとって大きな力になり、思い出に残るマラソン大会となりました。

2月18日(土)に4年生は「二分の一成人式」を行いました。

家族や周りの方々への「感謝」、将来に向けての「夢」、これから高学年になるための「決意」について、パワーポイントを使いながら、保護者の皆様の前で、堂々と発表してくれました。

心の込められた4年生の発表に、会場は感動で包まれました。

最後に全員で「十歳のありがとう」を合唱し、心温まる二分の一成人式となりました。

幼稚園通信

お店屋さんごっこ

2月27日(月)に全園児でお店屋さんごっこをしました。クラスでどんなお店にするか決め、売り手、買い手になり両方の役を楽しみます。

ほしぐみ↓スターホテル
つきぐみ↓警察
ぞうぐみ↓美容室
きりんぐみ↓写真屋さん
うさぎぐみ↓うどん屋さん
りすぐみ↓たこ焼き屋さん
ひよこぐみ↓パン屋さん



お遊戯室はたくさんのお店でにぎわっていました。「いらつしやいませー」「何にしますか?」「首は苦しくないですか?(美容室)」と店員になりきっていました。お店の商品や道具はすべて子どもたちが考えて作りました。色んな廃材を使い、なるほどと感心させられるものもありました。



マラソン大会

2月22日(水)にマラソン大会がありました。学年によって距離は違いますが、幼稚園の外周を走ります。「えいえいおー!」と気合を入れスタートしました。風の冷たい中ではありましたが、保護者の方やお友だちの声援に励めるようにみんな一生懸命走り、無事全員完走することができました。

練習より順位が上がった子どもたちもいれば普段の成果を出せなかった子どもたちもいて自分の結果に、「嬉しい」「悔しい」と思いは様々ですが「精一杯頑張った!」はみんな同じです。「来年まで今日から練習する!」と意気込んでいた子どもたちもいました。マラソン大会はこれで終わりですが、毎日の朝マラソンは継続し、体力づくりをしていきます。



年長組 修園旅行

2月17日(金)、18日(土)に年長組が山口県の西長門リゾートホテルに修園旅行に行きました。サファリランド、テーブルマナー、大きなお風呂に海辺の貝殻拾いと楽しみがたくさんありました。何よりお友だちと一緒に過ごすことが楽しくて仕方ないようでした。

「しゅうえんりょこう」

2月17日と18日に修園旅行に行きました。私はバスに乗ってサファリパークに行きました。バスに乗って動物をみました。後からバスを降りてきりんを見たり色々な動物を見ました。一番可愛かったのはうさぎとモルモットです。リスザルのことを普通のさると思いました。ぞうがお兄さんの言う事を聞いて私たちの事だけ聞かなかったからびっくりしました。修園旅行のお風呂がとっても気持ち良かったし心があたたかくなりました。ご飯のステーキが嫌いだっただけおいしかったです。寝る前の遊びが楽しかったです。

修園旅行後も「楽しかったね」「お風呂広かったね」など思いう話をしたり、おうちでもナイフやフォークを使って食事したりと修園旅行の余韻に浸っているようです。卒園前にまた一つ思い出が出来ました。



法話

浄土真宗本願寺派

西教寺（北九州市）

住職

日野 真人 師

無明長夜の燈炬なり



ある方角はまったくわかりません。

その時、見かねた鉄舟さんが声をあげました。

「明かりをいくら強くしても陸地は見えぬぞ。明かりを消してみよ。そうすれば陸地が見えるはず」

鉄舟さんの言うことに、乗組員たちは恐る恐る松明の火を消して目を凝らしました。すると、

「向こうにうつすらと明かりが見えるぞ」

「おれにも見えたぞ。向こうが陸地だ」

と乗組員は陸地のある方角を見つけ、みんな無事に帰ることができたそうです。

スマートフォンやSNS、それに華やかな遊び場——おそらくみなさんの周りには楽しく刺激的なものが溢れているでしょう。でもそれは、夜の船上であたりを強く照らす松明のようなものです。自分たちのいる場所は強く照らし

てくれるけれど、これから進むべき道を示すことはできない光です。

では、自分の人生の道筋に迷った時にはどうすればよいのでしょうか？

それには、まず自分の手に持つ強い光——楽しく刺激的な光を消してみてください。そして遠くの仄かな光に目を凝らしてみてください。その遠くの仄かな光とは、みなさんが鎮西敬愛学園で学んできた仏様の教えや、先生たちの教え、そして仲間たちの励ましのことです。

これから歩む人生で困難に悩む時、どうぞこの学園で学んだ仏教のことを思い出してください。それはきつと、あなたを導く光であると気づくことでしょう。

ご卒業、ご卒園おめでとうございます。

幕末に活躍した一人に山岡鉄舟さんがいます。江戸城無血開城を勝海舟さんと西郷隆盛さんと共に成しとげた方です。また明治天皇の侍従を勤められた方でもあります。その鉄舟さんにおもしろいエピソードがあります。

鉄舟さんたちが海に船を出していた時、帰りが遅くなり暗くなつてしまいい陸地がわからなくなつたことがあつたそうです。

「すぐに松明（たいまつ）に火を灯せ」

「松明を掲げてあたりを照らすみんなは口々に明かりを灯すように言ったそうです。

しかし松明の火がいくら強くとも、あたりを照らすだけで陸地の

中学高校部活紹介

バレーボール部 新人戦北部大会で優勝

敬愛高校バレー部は、新人戦北部大会に出場し、この大会で初めての優勝を勝ち取りました。

ベスト8総当たり戦で全勝しての優勝です。チームの団旗には「試練を潜り抜けて勝利の花」という先輩たちから受け継いだメッセージが掲げられています。岩永キャプテンは、「今後一人一人が成長し、チームワークを高め、次の大会を目指して頑張ります」と笑顔で話していました。

3月21日から東京都で行われる全国私立高等学校バレーボール選手権大会の出場も決めているバレーボール部を、これから応援していきましょう。



報道研究部

4作品が写真部門で受賞

福岡県高校文化連盟写真部門において、報道研究部の4作品が受賞しました。高峰匡一郎君の「艦油」が準特選、銀羽紗良さんの「みんなおいでー!」「家族」・山本翔子さんの「どうしたの？」が入選です。また、銀羽さんの「黄昏どき」は上野彦馬賞佳作となり、3月22日～4月2日まで小倉井筒屋パステルホールにて展示されます。

報道研究部の歴史はまだ浅いのですが、今年度は中学4名、高校11名が入り、カメラを持って様々な行事で楽しく撮影を行っています。これからの成長を応援していきましょう。



卒業生からのメッセージ

平成18年度卒業 有松 未央さん

私は、現在管理栄養士として食品加工会社で働いています。皆さんは、スーパーやコンビニでお弁当やおにぎりを買ったことはありませんか？ 私の仕事は、皆さんに安全に食べていただけるように、会社で作るお弁当やおにぎりの品質を管理することです。

まず、お弁当やおにぎりの材料が工場に到着したら、工場に入る前に、食材の安全性を確かめます。このとき、食材だけでなく、直接食品に触れる器具の安全性も確かめます。

次は、食材の加工です。一つ一つの食材ごとに、安全性を守り、味を一定にするために定められている加熱温度や冷却温度などの条件があります。各段階でそれらの条件を満たしているか確認します。また、袋から材料を出す場合

は、袋片が落ちることがないように、袋の開封方法を検討します。工場内が清潔に保たれているか、作業に関わる人が決まりを守って作業しているかを確認することも、食品の安全を守るための大切な仕事です。

商品が出来上がったらいよいよ出荷です。出荷前は、商品の味はもちろん、重さ、見た目が基準を満たしているかを確認します。品質が保たれているかを確認するために菌の検査をしたり、法律に則った食品表示をつくったりすることも品質管理の仕事に含まれています。

このように書くと、品質管理の仕事は、決まっていることを確認したり、徹底したりする仕事というイメージをもつ方もいらっしゃるかもしれませんが、しかし、おい



しく、安全な食品づくりに「絶対に正しいやり方」はありません。日々、自分自身で、そして職場の仲間と一緒に、「何がより安全なのか」を考え続けています。

高校を卒業して約10年が経ちましたが、穏やかで和気藹々とした雰囲気のおかげで、勉強のことに限らず何でも相談できる先生方や互いの成長を喜び合えるクラスメートに恵まれて過ごした高校での3年間の思い出は、今も私を支え続けてくれています。遠距離の通学でしたが、学校に行きたくなかったです。思ったことは一度もありませんでした。

在校生の皆さん、将来のことでも頭がいつぱいになってしまいうこともあると思いますが、ぜひ学校で過ごす今の時間も楽しんで、よい思い出を作ってください。

高2女子ダンス発表会 ～Dance Exhibition～

2月23日（木）、本願寺鎮西別院にて高校2年生女子によるダンス発表会が行われました。

高校2年生の女子は、週一時間のダンスの授業が行われています。発表会に向けて、ダンスのテーマや構成、音楽、衣装そしてプログラム表まで、全てを生徒自身で考えて創ります。

ダンスの練習には、授業だけでなく、放課後なども使いながら熱心に取り組んできました。

共同で一つのものを仲間と作り上げ、達成する過程では、単にダンスの技術だけでない多くのことを学んでいきます。苦労して作り上げた舞台で、生徒たちは仲間との信頼関係を築いて懸命に、楽しそうに踊ってくれました。これからも、その達成感や学びを忘れず学校生活に役立ててください。



伝灯奉告法要協賛事業 生徒作品紹介

浄土真宗本願寺派第二十五代専如門主伝灯奉告法要協賛事業の一つとして募集された「児童・生徒作品展」に中学3年の有賀結子さんが最優秀賞を受賞、「今あなたに伝えたい言葉」に高校2年の金子綾乃さんが入賞しました。

学校生活の様々な場面で触れている仏さまのみ教えを通して、考えたこと、感じたこと、思ったことを、中学生・高校生がそれぞれの言葉で表現しました。

児童・生徒作品展 最優秀賞受賞

世界の心の温かさ

中学3年 有賀 結子（王江小出身）

去年の十一月、イスラム国によるパリ同時多発テロが起こり、多くの人が命を落とすという悲惨な事件がありました。ニュースを見て言葉を失ったことはまだ記憶に新しいです。

しかし、その後に起こったある出来事に私はとても感動させられました。

テロが起こったわずか数日後、パリのレピュブリック広場に目隠しをしたイスラム教徒の男性が立っていた。彼は二つのボードを足元に置いており、それには「私はイスラム教徒です。人々は私のことをテロリストだと言います」「私は皆さんを信じています。皆さんは私を信じてくれますか？信じてくれるのなら、抱き締めて下さい。」と書かれていました。それを見た人々は次々と広場に集まり、一人、また一人とその男性を抱き締めていったのです。中には泣きながら抱き締めて

いる人もいました。

私はこの出来事をテレビで初めて見た時、涙が止まりませんでした。一体パリの人々がどんな気持ちで男性を抱き締めたのか、彼がどんな気持ちで広場に立ったのか、考えるだけで胸が締め付けられるようでした。きっと彼を抱き締めた人の中には何人も自分の家族を失った人もいたと思います。

更に、その男性の動きは色々な国の人に届き、他の国のイスラム教徒の人々も同じように動き始めたのでした。そして、そこでも人々はイスラム教徒の人々を受け入れ、抱き締めました。

私は、このことを知って、偏見なんかで物事を決め付けてはいけなくと改めてわかりました。

世界には、こんなにも優しく温かい心を持った人々が沢山います。私もその心を見習っていきたいと思いました。

こういった人達に幸せが訪れることを、心から祈っています。

『今あなたに伝えたい言葉』入賞

「目に見えないものを大切に」

人の優しさや気遣いは日常にあふれているけれど、決して当たり前のことではない。目に見えないものだけではなく、見えないものも大切にしていかなければならない。あらためてそのことに感謝の気持ちを持って日々を過ごしていきたいという思いからこの言葉にしました。

高校2年 金子 綾乃（菊陵中出身）



本願寺での表彰式後に

（左：金子さん 右：有賀さん）

高校1年 特訓講座

3月1日（水）～3日（金）に、高校1年生対象の特訓講座を設けました。大学・仕事についての認識を深める作業を通して、生徒たちに自分の将来像を考え、現在の自分に必要なものに気づいてほしいという考えのもとに実施しています。

生徒たちはこの日のために、様々な仕事についてグループで資料をまとめ、発表する準備をしてきました。1日目、2日目の発表後には、先生やゲストティーチャーからのアドバイスをもとに、発表の内容修正。最終日は、初日より内容が深く、わかりやすい発表となっていました。この学びを2年生につなげ、将来について考えを深めながら日々を過ごしていきたいでしょう。

ゲストティーチャーとしてご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

新小文字病院様

北九州市獣医師会様

北九州市農事センター様

洋建築計画事務所様

安川電機みらい館様

北九州銀行様

麻生公務員専門学校様

九州産業大学芸術学部様

学校保護者会会長 村上様

本校卒業生 門野様

